

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193800034		
法人名	株式会社 パシフィックケアサービス		
事業所名	グループホームゆとりの里三石(ユニット1)		
所在地	北海道日高郡新ひだか町三石舞舞344番地の6		
自己評価作成日	平成30年2月12日	評価結果市町村受理日	平成30年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosyoCd=0193800034-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成30年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆとりの里三石は自然に恵まれた広い敷地に平屋造りで建っています。窓からは目の前に広がる太平洋や町内の山並みが見え夕暮れ時には水平線に沈む夕陽や美しい夕焼けが見られます。建物の周りには畑や花壇があり春の種まきから秋の収穫まで、利用者様と職員が協力し合って管理を行っています。また敷地内ではヤギや羊、鶏を飼っており羊毛は座布団やクッションに利用、新鮮な鶏卵はホームの食事に提供しています。近隣住民やご家族を招いてのバーベキュー大会やクリスマス会を初め、月に一回程度企画行事を行っています。建物内部は共用部分(玄関、廊下、脱衣所、トイレなど)のほとんどの場所に手すりを設置、居間や居室は大きい窓で太陽の光を十分に取り入れることができる造りになっています。災害時には迅速に消防署へ通報できるよう自動通報装置、スプリンクラーを設置しています。非常口も玄関2ヶ所を含め全5カ所あり災害時の避難経路は十分確保されており、年2回以上の避難訓練を消防署や地元消防団の方たちとも合同で行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、雄大な太平洋に沈む美しい夕陽を望むことができる自然に恵まれた地にある。広い敷地に平屋建ての2棟があり、玄関からバリアフリーで建物内も広く安心、安全で明るく、清潔で開放感がある。事業所行事の夏祭りやクリスマス会には利用者、家族、地域住民などが参加して交流し楽しく過ごしている。町内会行事(敬老会、清掃など)には、利用者も参加して地域住民と交流している。また、ボランティア等を通して家族や地域住民との交流も深く馴染みの関係が築かれている。事業所は、認知症カフェを開き、利用者、家族、地域住民を招き、認知症への理解、協力を求め地域貢献にも努めている。地域の学校や保育所、自治会との相互交流も活発で、利用者も地域の方々が多く、知り合い同士の入居もあるなど、家族からの信頼も厚く地域に密着したホームである。職員は、明るく、優しく、利用者に接し、利用者は、職員に信頼を置き明るく笑顔で生活している。運営者・管理者は職員教育に力をいれ、研修、資格取得を奨励しながら職員のレベルアップと上質なケアサービスに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 8 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念に添い一人一人の利用者さんと寄り添いともに生活している。	地域密着型の基本理念と運営理念を掲げ、職員全員が日常生活で利用者第一に安心・安全を求め、また、ケアプランやモニタリング作成時には、全員で理念を確認、共有してサービス向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	月1回、カフェを開き地域の方との交流を深めている。また敬老会や行事にも積極的に参加している。	地域自治会に加入し、敬老会や清掃活動に参加している。利用者・家族・地域住民は、事業所の夏祭り、クリスマス会、餅つきに参加している。認知症カフェを開催したり、民生委員、看護師等の研修や子供お茶会の場所を提供して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護協会会員の研修の場として出向き認知症の理解を深める活動をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日々の取り組みはもちろん自己評価の結果報告をし意見を頂いた。今後の取り組みとして職員にも会議内容を報告する。	年6回、地域包括支援センター職員、自治会、利用者、家族などが参加して開催している。行政の報告、事業所の現況、活動報告(写真を添付)、自己評価の結果報告などをを行い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修や講習等の情報をいただき参加したりその時のニーズに対応して情報交換し入所などに繋げている。	道・日高振興局歯科推進事業のモデル事業所となり、3月22日検討報告、交流会を実施した。口腔ケアに利用者を含め理解を深めた。地域包括支援センターとは、情報交換、相談、助言を求めて連絡を取り合っており協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全のため夜間のみ施錠はしているがそれ以外の時間は常に開放している。身体拘束については勉強会など開き徹底している。	内部研修を行って、困難事例の理解、モニタリング時には身体拘束をしていないかなど職員で確認しながら理解している。外部研修では札幌、苫小牧、静内地区で開催される研修会に参加し、拘束しないケアを職員全員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症ケア専門士の研修会にほぼ参加し様々な情報を得て虐待防止に努めており、日頃より防止に努めている。		

グループホームゆとりの里三石(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学ぶことが少なく理解できていないスタッフが多い。勉強会を開き理解を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には十分に説明しており疑問点についても都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された家族への説明はもちろん遠縁の方の場合は手紙や電話で密に連絡し意見を反映している。	毎日の会話から利用者の意見、要望の把握に努め、家族とは、運営推進会議参加時や面会時に意見、要望を聞いている。また、遠方の家族には手紙や電話で意見、要望を聞き、運営に反映させている。意見箱を置いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や個人面接などして不満や不安なことは伝え、出来る限り反映している。	施設長、管理者は、個人面接や運営会議で意見・要望を聞いて検討し、運営に反映させている。今年度は、事業所の案内板設置について意見があり、職員が作成し設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制については時間の配慮など臨機応変に対応している。給与の改善は少しずつだが改善されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修の参加など後押し協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事を通して交流を図っているが十分とはいえない。		

グループホームゆとりの里三石(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現状にあった対応をするため日常生活から寄り添いささいなことでも対応検討しより良い関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人一人の状況変化を見極めそれぞれにあった支援を行い生活の質を高めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	落ち着いた安心して暮らせる環境づくりを心がけ積極的に関わっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への電話や手紙を通して近況報告や相談など出来るよう勤めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に伺った馴染みの関係を維持できるよう交流の機会を作っている。	ボランティア仲間や床屋、認知症カフェで知り合った馴染みの人が訪ねてくる。また、知人、友人など来訪時にはゆっくり話せるよう支援し、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の工夫やスタッフも加わりお茶の時間に話題提供など工夫し支援している。		

グループホームゆとりの里三石(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係を大切に継続が必要な時は協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見や希望を良く聞き希望に沿い介護計画を制作している。	日常生活で利用者の思いや意向を把握、記録し職員間で共有している。思いや希望の表現困難な利用者には、家族と相談・情報をとりながら、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、ケア向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員1人1人が情報を共有しその人らしい生活を出来るよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを月1回行い改善点や今後の目標など話し合い、変更があれば臨時会議を開き見直しも行っている。	月2回の協力医・看護師等の往診時の情報・指導を取り入れ、担当メンバー全員で介護計画を作成している。計画の見直しは、短期3か月、長期6か月で状況に変化があれば、その都度見直すこととしている。介護計画は、利用者・家族に説明して確認印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を参考に日々の変化などすぐにわかるよう工夫し、改善点があればその後のプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿うように状況に応じた対応が出来るように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の温泉や商店や床屋を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望と本人のニーズに合った受診が出来るよう往診以外受診も取り入れている。かかりつけの医師には密に情報提供して連携をしている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。受診は基本的に家族が同行し、状況により職員が同行している。協力病院による月2回の往診と24時間看護師との医療連携体制が出来ている。	

グループホームゆとりの里三石(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間でも常に看護師との連絡は取れるようにしており、状況に応じてその都度報告し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族やかかりつけ医とも連携を図り早期退院に繋がった。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する同意書にサインをもらいホームでの対応についても十分に説明を行い穏やかに過ごせるよう支援している。	入居時に本人、家族に、対応指針に基づき事業所として可能な支援内容について説明し、同意を得ている。重度化した場合は、本人や家族、医療関係者と連携し、本人や家族の意向を最大限尊重して、方針を共有し希望に添うよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低年二回以上の災害時避難訓練を行い、緊急時対応マニュアルの制作も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員、利用者とともに避難訓練を行い緊急時の対応対策を徹底している。	年2回、津波や火災、地震を想定した避難訓練を消防署及び自治会の協力を得て実施している。災害時の連絡網もラインを利用して瞬時に対応している。また、レクリエーションを活用して避難方向、経路を確認している。水や食料品、自家発電機等を備蓄している。	避難訓練や自主訓練を行い、食料や自家発電機を備蓄して、災害対策を確立している。避難訓練にあたって消防署に提出する実施依頼書や実施報告書の受領印のある災害対策関係書類を整備し、更に災害対策に向けた体制づくりに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守り利用者の希望していること、やりたいことを考え誇りを傷つけないよう支援することについて努力している。	利用者の考えや誇りを傷つけない接遇で一人ひとりに合った言葉かけ、言葉遣いに配慮している。虐待防止を含め内部・外部の勉強会、研修会に参加している。研修結果を報告して職員同士の確認と共有の認識に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に意思決定してもらえよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体の業務ではなく本人の意思を尊重し、過ごしやすい生活を出るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容などに必要なものがあれば職員が買い物に行ったり、本人と出かけたりなどの支援をしている。		

グループホームゆとりの里三石(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲が出るよう食べやすい器を使用したり、食べたいものを聞き一緒に作ったりなどして残存能力を生かす支援などしている。	自宅にいると同じように、利用者は能力に応じ調理から配膳、片付けをリハビリも兼ねて職員と一緒にやっている。利用者・職員は会話をしながら、楽しく食事をしている。また、外食や行事食・手作り弁当を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が上手く取れない方にはゼリーを提供することや、カロリー制限がある方には低カロリーの物を提供する等工夫して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア研修に参加して、知識や技術を活かし清潔を保つ支援をしている。(毎週水曜日ポリデントをしている。)		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄習慣を把握してできるだけ布パンツ等普段から失禁などの失敗を減らせるよう努力している。	チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間毎に、あるいは様子を観察しながら声をかけ、誘導を行っている。少し早めの声掛けや個々に合わせたタイミングでの誘導をすることで、おむつやパットの使用を減らし、トイレでの自立した排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬による調整もしているが、食事や運動などで解消できる事があれば取り組み改善へ繋げている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特定の時間帯を希望される方にも配慮し入浴をしてもらえるように工夫している。入浴を楽しみ歌など唄う方もいる。	週2回以上希望に合わせて入浴している。職員と会話したり、歌を歌ったり、入浴剤を使用したりして入浴を楽しんでいる。入浴拒否者には、生活歴や思いをくみ取り、時間やタイミングに配慮して入浴を勧めている。また、近くの三石温泉や町から静内温泉の無料入浴券が提供され、温泉入浴を楽しむ機会を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な睡眠が出来るよう、昼寝の習慣がある方には時間を決めて寝てもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間の情報共有をしっかりと行い改善が見られればその都度、関係機関と連絡、相談し服薬量など検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴から趣味や仕事を把握し、好きなことを生かし気分転換を行っている。		

グループホームゆとりの里三石(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援をととして競馬場や温泉施設など皆で楽しめる行事を計画し楽しめるよう支援している。	日常の買い物や外食、温泉に車で外出している。桜祭りや蓬莱山祭りにも車を利用して行ったり、家族・ボランティアの協力を得て外出支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームで金銭管理を行い必要ときには本人に持っていたき買い物などをしていく。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に家族へ電話し近況報告や本人と話しが出来る様に支援している。時々写真入りがきを出している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは不快感のないよう配置など工夫しトラブル防止に努め、過ごしやすい環境づくりをしている。	明るく広い共用空間は、温度・湿度の空調管理が適正で音や臭いも気にならない静かな雰囲気を作り出している。壁には季節の飾り物や行事の写真などを掲示して、利用者は談笑したり体操等、思い思いに楽しく過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その状況に合わせて配置替えなど工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に居た時の雰囲気や安心できるよう使い慣れたものを置いている。	クローゼットが備え付けられ、馴染みの家具など使い慣れた物を持ち込んで、家族と一緒に部屋の物の配置替えをしながら思い思いの自宅に居る雰囲気を作り出して居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には分かりやすいように張り紙や表札をつけている。			